フレッシャーズ 座談会

本社主催 産業論文入賞者

日刊工業新聞社は「第36回フレッシャーズ産業論文コンクール2013」の入賞上位8人による座談会を開きました。学生時代や現在の仕事に取り組む姿勢、日本企業の強みや働く環境について話し合いました。チームワークの重要性を指摘する声が多く、会社の中で果たすべき役割や自身の将来像を明確に描いていました。（入賞論文は11月20日付日刊工業新聞に掲載しています）

出席者

【Ⅰ部入賞者】
- 堀場製作所　吉川 透（よしかわ とおる）さん
- ライオン　磯部 美月（いそべ みづき）さん
- ライオン　加藤 茉莉（かとう まり）さん
- 三菱電機　穂垣 暢久（ほがき のぶひさ）さん

【Ⅱ部入賞者】
- エイチアンドエフ　木村 圭祐（きむら けいすけ）さん
- 千代田三菱電機機器販売　佐野 裕康（さの ひろやす）さん
- ヤマハモーターソリューション　三輪 樹生（みわ みきお）さん
- パナソニックSNソフトウェア　木場 孝輔（こば こうすけ）さん

司会 日刊工業新聞社第1産業部 下氏香菜子

新入社員が描く企業の将来

●学生時代との違い

―このたびは受賞おめでとうございます。まず最初に、学生時代に学んできたことや今の仕事についてお聞きしたいと思います。

吉川 学生時代に材料研究に取り組む中で分析装置の重要性を知り、分析器メーカーへの就職を決めました。今は、検出器の性能向上に関わる仕事を担当しています。自分の希望と一致する職種に配属されてとてもやりがいがあります。

木村 私は大学で貿易船の船員を育成する海事科学部で船の勉強をしていました。工学系の知識を生かし、今は会社の技術部に配属され3次元CADを使ってパソコンで図面を書く機械設計を担当しています。会社のすぐ隣に工場があり、自分が書いた図面が完成していく様子が確認できてうれしく思います。

磯部 私は日常の中でささやかな喜びを与えられる作り手になりたいと思い、日用品を手がける当社に就職しました。現在は営業職として商品を置いて頂いているお客さまを回り、商品の紹介や商品が売れる売り場づくりを提案しています。

佐野 工場の自動化に貢献するFA（工場自動化）機器の営業担当です。お客さまから相談を受ければ適切に応えて、提案していかなければなりません。営業はお客さまから話を聞き出す力が重要で、先輩のやり方をマネしているものの、なかなか難しいのが現状です。

吉川さん

自分の役割見つける　吉川さん
個の力の重要性痛感　三輪さん

◇

―加藤さんは学生時代に留学されていたそうですね。

加藤 米国に1年間留学していました。現地で日本の製品を見るとうれしく誇らしく思い、もっと海外に広めていきたいと思いました。会社では社内で使うシステムの開発を担当しています。お客さまからの問い合わせをデータとして蓄積し、社内に還元するために必要で、間接的ではありますが製品開発に貢献できると思うとやりがいがあります。

三輪 私は故郷の静岡県で就職し、地元に貢献しながらも世界で活躍できるチャンスがある企業だと思い、入社を決めました。今は研修中で親会社のヤマハ発動機やグループ会社で利用する生産管理システム、会計システム、サプライチェーン・マネジメント（SCM）システムなどのプログラミング学習をしています。大学では運動生理学を学んでいたので、全く新しい分野への挑戦といえます。しっかり勉強して技術力を身につけたいです。

穂垣 学生時代に工学部で機械工学を学んでいました。大学の先輩が当社に入社しており風通しのよい社風だと聞いて、自分にはこの会社しかないと思いました。入社後は神戸で火力発電所の設備配置設計を担当しています。コストやメンテナンスのしやすさなどを踏まえて、効率的で効果的に稼働できる設備の配置を決めていきます。

木場 大学で情報学を専攻しアルゴリズムについて学ぶ中で、理論を生かす場はモノづくりにあると気づきました。いつか街中で自分の作ったモノを見つけたとき、「学生時代に学んできた理論が本当の意味で役立つことができた」と満足感が得られるのではないか思っています。現在は海外向けの電話機に組み込むソフトウエアを開発しています。これからいろいろなモノづくりに携わっていきたいです。

◇

―社会人になって約半年が過ぎました。日々仕事をする中で、学生時代との違いを感じることはありますか。

吉川 自分一人では動けないと実感しています。学生時代は自分一人で材料を作製して、分析結果を考察すればよかったのですが、今は5人くらいのチームで動いています。検出器を作る人、回路を設計する人など担当が分かれていて、それぞれ自分の役割を見つけて遂行しなければなりません。円滑に仕事を進めるためには自分以外の他の人の担当分野を把握することも重要だと思いました。

磯部 会社を支えている方々がたくさんいることを知りました。会社の中に多くの部署があり、商品を売るにもさまざまな人が関わっています。目に見える範囲だけですべてが完結していた学生時代とは違います。

木村 私も、多くの人の力で社会が成り立っていると痛感しました。例えば、車の生産ラインには当社が手がけているプレス機械や搬送装置だけでなく、材料の溶接装置や塗装・組み立て装置などさまざまな機械が必要です。すべてがそろってようやく1台の車が完成します。

三輪 社会人になり、自分が社会の一員であり、組織の一員であるという自覚が生まれました。会社を動かしているのは人であり、人の判断でビジネスが動いていきます。プレッシャーも感じますが、個々の力の重要性を感じています。

佐野さん

責任感の重みが増す　佐野さん
仕事以外でも充実を　加藤さん

◇

―1日の時間の使い方も随分変わったのではないでしょうか。

佐野 時間の使い方は大きく変わりました。自分の好きなようには使えません。大学時代は自分が勉強しなくても自分に返ってくるだけですが、社会人は決して手を抜けません。製品を間違えて卸したり、納期に遅れたりしたらお客さまに悪影響が出てしまいます。責任感の重みが違います。

加藤 仕事とそれ以外の時間をどう使っていくかが重要だと思いました。仕事ではチーム全体を動かす力が必要で、自分の仕事はもちろん、先輩が忙しそうなときは自分ができる範囲でサポートしていく必要があります。仕事以外では休日をどう過ごすかを考え、充実させることが大切だと思います。学生時代はどちらかというと受け身で、アルバイトなどで時間を埋めていった気がします。

木場 大学では自分さえ分かっていればよいと思い、課題を後回しにしてしまうこともありましたが、社会人は何より納期が大切です。先輩からは、仕事で15分考えて分からなかったら質問するように言われています。聞けばとても優しく丁寧に教えていただけます。

穂垣 社会人はそつがなく、完璧な人の集まりというイメージを抱いていましたが、実際は適度な脱力感があるというか気さくな方ばかりでうれしかったです。例えばお酒の席では年齢や肩書に関係なく、和気あいあいと交流するし、仕事はもちろん家族のことなどプライベートな話もしてくれます。風通しのよい雰囲気は働きやすさにつながっていると思います。

●日本の強み

―グローバル化が進み、海外企業との競争が厳しくなっています。皆さんから見て、日本の強みはどこにあると思いますか。

木場 教育水準の高さが国民の平均的な知識レベルを押し上げ、結果的にモノづくりのレベルの高さにつながっていると思います。豊富な知識があるからこそ、新しい発想が生まれてユニークな提案ができているのではないでしょうか。

吉川 私は思いやりや協調性に優れているところが日本の強みだと思います。論文にも書きましたが、相手を思いやる心がないと仕事はスムーズに動きません。例えば「時間がないからここは私が担当する」とか、「この部分は自分が詳しいから任せて欲しい」とか仕事上でチームワークは最も重要です。

加藤 日本人は絆が強いと思います。グローバル化するという強い意志を持ち、一致団結すれば海外で必ず戦っていけると思います。

三輪 確かにチーム力は大切です。実際、ヤマハモーターソリューショングループ会社全体で「チーム力で顧客の期待を超えるソリューションを提供する」というビジョンを掲げています。また欧米とは異なり、空気を読むとか行間を読む力も優れていて強みだと感じます。

佐野 きまじめさも強みではないでしょうか。契約一つにしてもコンプライアンスの甘い国だと守られないことがありますが日本人はしっかり守るし、真面目に質の良い製品を提供し続けています。グローバル化により海外勢との価格競争が激しくなりますが、売り手としては初期投資が高くてもトータルでは日本製が良いと顧客に伝えていきたいです。

穂垣さん

新しい発想生む土壌　木場さん
モノづくりへの姿勢　穂垣さん
技術・コストの両輪で　木村さん
引き算の思想 製品に　磯部さん

穂垣 佐野さんが言うように、日本の強みはきまじめさにあると思います。心配りとかおもてなしとか、日本独自の精神が製品に表れています。私がモノづくりの現場を見学した際、ミリ単位でモノを削るとか磨くとかモノの細部にまでこだわりをみせる技術力の高さを目の当たりにしました。こういう仕事は新人には決して任せられないし、任されるまでに何十年もかかる。圧倒されました。

木村 日本の強さはやはり技術力にあると思います。ただ、これからは技術とコストの両輪で海外勢と競争していかなければなりません。

磯部 私は一つの製品について極めるのが強みであり、弱みでもあると感じます。新製品は確かに新しい機能が増えて進化しているのですが、昔から比べると伸び幅が減っているのではないでしょうか。実際、営業担当としてお店の方にお話するときも新製品が他社製品と比べてどう違うのかよく質問されるので、製品の差が見えづらくなってきているのだと思います。そろそろ足し算ではなく引き算をしていかなければならないと感じます。例えば、米アップルの携帯型音楽プレーヤー「iPod（アイポッド）」は、説明書を見なくても誰もが簡単に使える点が評価されました。引き算が成功した事例だと思います。

木村さん

第37回 フレッシャーズ産業論文コンクール 2014

「フレッシャーズ産業論文コンクール」は企業を始めとする産業界の課題である〝人づくり〟を支援するための顕彰事業として、新入社員を対象に実施しています。社会人として世の中や自分を見つめる機会としてだけではなく、さまざまな事を感じ、考え、文章にする「社員研修」のひとつとして、多くの企業から教育ツールとしてご利用頂いております。

実施要綱

応募資格 コンクール参加企業の新入社員（2014年度入社）
Ⅰ部：大手企業 ／ Ⅱ部：中堅・中小企業
※共同執筆は1論文につき3名まで
※個人での参加は受け付けておりません

論文締切 2014年8月22日（金曜日）　※Eメールでの応募締切も同日

入賞発表 2014年11月　日刊工業新聞紙上

※応募論文の版権は日刊工業新聞社に帰属します。また応募論文は返却しませんので、念のため各企業でコピー保存してください
※ご提供頂きました個人情報は、フレッシャーズ産業論文コンクールに関すること以外には使用しません

■ 論文テーマ

Ⅰ部「あすの企業を考える」
B4判 400字詰 縦書き原稿用紙10枚（本文）　※社名・出身校名入りの原稿用紙は使用不可
※各自必ず副題をつけてください
※副題選定や引用に日刊工業新聞を活用下さい（参加者は3カ月間無料購読できます）
参加費 1口86,400円（税込8%）（5名分）　※1名の追加参加につき17,280円
表彰 経済産業大臣賞／1名　第二席（1名）第三席（2名）優良賞（3名）他

Ⅱ部「中堅・中小企業の将来像を考える」
B4判 400字詰 縦書き原稿用紙5枚（本文）　※社名・出身校名入りの原稿用紙は使用不可
※各自必ず副題をつけてください
※副題選定や引用に日刊工業新聞を活用下さい（参加者は3カ月間無料購読できます）
参加費 1口51,840円（税込8%）（3名分）　※1名の追加参加につき17,280円
表彰 日本商工会議所会頭賞／1名　第二席（1名）第三席（2名）優良賞（3名）他

インターネットでのお申し込み　http://www.nikkan.co.jp/fresh/

主催：日刊工業新聞社
後援：経済産業省、日本商工会議所、日本経済団体連合会、経済同友会、日本能率協会、日本生産性本部　※左記は前回ご後援いただいた団体です
お問い合わせ：日刊工業新聞社 フレッシャーズ産業論文コンクール事務局　〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1　TEL 03-5644-7253　FAX 03-5644-7261